鷲宮高等学校 令和７年度（２学年用）年間授業計画　教科：地理歴史　科目：世界史探究

対象学年組：第２学年　　**単位数：３単位**

使用教科書：　詳説『世界史』山川出版社　　使用副教材：『最新世界史図説 タペストリー』帝国書院、『ゼミナール世界史』浜島書店、『世界史 重要語句チェックリスト』啓隆社

教科の目標：

【知識及び技能】　世界の歴史を学習し基本的な知識を得ることで、諸文化を理解する技能を磨き、多文化を受容する態度を養う。

【思考力、判断力、表現力等】　授業で得た知識を自分の言葉で表現する力、また、地図・図版などの資料を活用し事象の因果関係や意味を思考、判断する力をつける。

【学びに向かう力、人間性等】　諸地域と日本の地理歴史のあり方、関わりを主体的に考察し、現代社会においての自己の生き方に反映させる。

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界諸地域の歴史を学習し、その特性を知ることで、他文化・歴史を理解し、尊重する態度を育む。また、地域間の人・もの・情報の移動と交換を通し、世界が複雑なネットワークで結ばれながら、現代のグローバル社会が形成されていく過程に着目し、どのような課題があるのかを理解する。	古代～中世、近世の世界の歴史について、自分の言葉で興味・関心を述べられるようにする。また、各時代および諸地域を比較することで、歴史の流れや地域間相互の関連を多角的に考察し判断する。そのために、諸資料を読み、考え判断する力をつける。	グローバル化する社会において、自己の能力を活かし、より良く活動・活躍できるよう、社会が抱える課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。そのため、授業での積極的な発言や意見交換が求められる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
１学期	【知識・技能】 ・人類の進化をたどり、自然環境への働きかけが文明を成立させたことを学習する。・オリエント（エジプト、メソポタミア）文明、インダス文明について学習する。 【思考・判断・表現】 ・農耕・牧畜が文明をもたらしたことを理解し考察する。・オリエント文明について、図版を参照し、巨石建造物の名称を学習する。・古代インドにおいて、ヴァルナなど階級社会の原型がつくられたことを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業で積極的に発言をおこなう。単元ごとに、興味・関心を持った事柄について振り返り、自ら調べる。副教材を用い知識を定着させる。	・世界史へのまなざし 自然環境と人類の進化 ・文明の成立と古代文明の特質 文明の誕生、 古代オリエント文明とその周辺、 南アジアの古代文明	【知識・技能】 ・人類の進化の過程を理解できているか。・オリエント文明について、対照的な２つの地域であるエジプト、メソポタミアの特色をあげることができるか。・インダス文明の特色を理解できているか。 【思考・判断・表現】 ・農耕・牧畜がなぜ重要であるか、文明との関係を述べられるか。・エジプトとメソポタミアの２つの文明の特質を地理風土や民族の興亡をあげて対比できるか。・ヴァルナ制、ジャーティについて説明できるか。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に発言ができたか。単元で学習したことについて、自分の興味・関心を広げ、主体的に学習をする態度を養えたか。問題集を活用し、知識を定着させたか。	○	○	○	18
	１学期中間考査			○	○		1
	【知識・技能】 ・中国の古代文明と王朝の成立・変遷を学習する。 ・中国の王朝と、中央ユーラシアで活躍した遊牧民との関係を学習する。・日本にも影響を与えた唐の政治体制を学習する。・インドで生まれた仏教とヒンドゥー教について学習する。 【思考・判断・表現】 ・地図・図版を活用し、黄河と長江にうまれた中国文明を対比し理解する。・中国の西方への進出、および西方からの文化や文物の伝播を考察する。・インドでなぜ仏教、ヒンドゥー教が生まれたかを考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代より日本と関わりの深い中国が、東アジア世界を牽引する過程を知り、大国中国との交流を、現代につづく課題として関心をもち，積極的に知ろうとする。	・文明の成立と古代文明の特質 中国の古代文明 ・中央ユーラシアと東アジア世界 中央ユーラシア、 秦・漢帝国、 中国の動揺と変容、 東アジア文化圏の形成 ・南アジア世界と東南アジア世界の展開 仏教の成立、 南アジアの統一国家、 インド古典文化とヒンドゥー教、 東南アジア世界の形成	【知識及び技能】 ・中国古代文明について土器を中心に理解できたか。・周の封建制、秦の郡県制、漢の郡国制の相違を指摘することができたか。・魏晋南北朝の動乱の系譜をいえるか。・騎馬民族について理解できたか。・唐の社会制度、支配体制を理解できたか。・唐の衰退について、その理由を説明できるか。 【思考力、判断力、表現力等】 ・司馬遷の『史記』匈奴列伝などの資料を読み、西域諸国について理解し、中国との関係を考察し、自分の言葉で表現できたか。・仏教、ヒンドゥー教と現代のインドの社会の関わりについて説明できたか。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に発言ができたか。歴史と現代社会との関わりについて自分の興味・関心を広げ、主体的に学習をする態度を養えたか。問題集を活用し、知識を定着させたか。	○	○	○	18
	１学期期末考査			○	○		1
２学期	【知識及び技能】 ・広大なイランを支配した、アケメネス朝～パルティア～ササン朝の興亡を学習する。・アテネを中心とした民主政の出現について学習する。・ローマが都市国家から帝国へと発展する歴史を学習する。・キリスト教の誕生と教会の発展を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 ・中央アジアでなぜ大帝国が興亡したのか、東西交流を概観しながら考察する。・民主政について、古代と現代の仕組みや考え方の違いを指摘する。・キリスト教が迫害の後に、国家宗教へと変貌する過程を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 民主制の成立の背景および変遷の過程の学習を通し、ひとり々の政治への参画、より良い社会を形成していこうとする姿勢を養う。	・西アジアと地中海周辺の国家形成 イラン文明、 ギリシア人の都市国家、 ローマと地中海支配、 キリスト教の成立と発展	【知識及び技能】 ・イランに建国された諸国家について理解できたか。・アテネ民主政について理解できたか。・ローマの政治変遷（共和政⇒元首政⇒専制君主政）を説明できるか。・キリスト教の根本思想を言えるか。 【思考力、判断力、表現力等】「獅子狩文鏡」などの図版を見て、東西交流を説明できるか。・オストラコンが何を目的としたものか、図版を見て説明できるか。・水道橋や闘技場など、ローマの文化の実用性について説明できるか。・キリスト教の根本思想である隣人愛について考察できたか。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に発言ができたか。宗教が、身分や経済的不平等などの社会問題と関わっていることについて興味・関心を持ち、主体的に学習をする態度を養えたか。問題集を活用し、知識を定着させたか。	○	○	○	21
	２学期中間考査			○	○		1
	【知識及び技能】 ・イスラームの誕生と、各王朝の特色を学習する。・中央アジア～南アジア～東南アジア～アフリカ各地へのイスラームの拡大を学ぶ。・ゲルマン民族の侵入により、東西ヨーロッパが分断され、異なる文化が育まれたことを理解する。・イスラームと西欧キリスト教世界との交流・衝突について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・イスラーム王朝の地図上の位置を指摘する。・ゲルマン民族の移動およびキリスト教の受容を背景としたフランク王国の発展を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 イスラームへの理解が、平和な現代国際社会の構築に欠かせないことを理解し、イスラームの歴史・文化を理解しようとする態度を養う。	・イスラーム教の成立 アラブの大征服とイスラーム政権、 ・ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向 イスラーム教の諸地域への伝播、 西アジアの動向 ・ヨーロッパ世界の変容と展開 西ヨーロッパの封建社会とその展開、 東ヨーロッパ世界の展開	【知識及び技能】 ・アラビア半島、イラン、トルコ、アフリカ、西ヨーロッパに建国されたイスラームの王朝を整理し、理解することができたか。 ・中世、キリスト教が人々の精神や生活に大きく影響したことを理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 キリスト教世界とイスラーム世界の関わりを、西ヨーロッパについてはフランク王国の発展から、東ヨーロッパについてはビザンツ帝国の衰退から、考察できたか。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に発言ができたか。現代社会を理解する上でも重要となる、イスラーム・キリスト教という世界宗教について、興味・関心を持ち、主体的に学習をする態度を養えたか。問題集を活用し、知識を定着させたか。	○	○	○	21
	２学期期末考査			○	○		1
３学期	【知識及び技能】 ・西ヨーロッパに成立した封建社会が、商業活動・貨幣経済により衰退に向かう過程を学習する。・教皇権から王権へと権力が移行し、各国で中央集権化がすすむ過程を学習する。・宋と周辺民族の対立、さらにモンゴルの台頭とモンゴル帝国、元朝の成立を学習する。・明の内政と外政について学習する。・アジア諸帝国の繁栄を学習する。・スペイン、ポルトガルの海外進出について学習する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図版を利用し、荘園の構造と封建社会の特色について、多面的に考察し、表現する。・中世都市の景観を示す資料をもとに、商業の復活について理解を深める。・「大憲章」などの資料を読み、市民階級の台頭を考察する。・モンゴルの台頭と陸海ネットワークについて、ユーラシア全域そして日本への影響を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 中世～近世にかけて、活発化する人・もの・情報の伝播・交流が、現代グローバル社会につながることを認識し、私たちが抱える国際化の課題について意欲的に探究しようとする態度を養う。	・ヨーロッパ世界の変容と展開 西ヨーロッパ世界の変容、 西ヨーロッパの中世文化 ・大交易・大交流の時代 ・東アジア世界の展開とモンゴル帝国 アジア諸地域の自立化と宋、 モンゴルの大帝国 ・アジアの諸帝国の繁栄 オスマン帝国とサファヴィー朝、 ムガル帝国の興隆、 清代の中国	【知識及び技能】 ・荘園を基盤とする封建社会について理解できたか。・教皇権に替わり、王権が諸侯・市民を従えて強大化する過程を理解できたか。・中国と周辺民族の関わりについて理解できたか。・中国、インド、イランに繁栄した帝国を言うことができるか。 【思考力、判断力、表現力等】 ・封建制とその衰退について、領主層の没落と市民層の台頭について考察し、都市が果たした役割について述べることができるか。・宋における都市の発達を、「清明上河図」などの図版を参考に説明することができるか。・モンゴル帝国の領域を示す地図を説明できるか。・アジア諸帝国の興隆が、西欧諸国を刺激し、海洋進出につながり、次の近世を準備したことを考察できたか。・一年時に学習した歴史総合を振り返り、大交易・大交流の時代を通して、世界の一体化が始まっていったことを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に発言ができたか。中世から近世へとダイナミックに変容する世界をとらえ、歴史の学習が現代社会の理解に欠かせないことを知り、主体的に学習をする態度を養えたか。問題集を活用し、知識を定着させたか。	○	○	○	22
	学年末考査			○	○		1
						合計	105